

平成 27 年 11 月 22 日 (日) 施行

## 第 180 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

### 第 1 問

1. 銀行から現金の借入

(借) 現金 (資産) の増加	(貸) 借入金 (負債) の増加
-----------------	------------------

2. 手形・掛仕入

(借) 仕入 (費用) の発生	(貸) 支払手形 (負債) の増加
	買掛金 (負債) の増加

3. 旅費の概算 概算額の支払→仮払金

(借) 仮払金 (資産) の増加	(貸) 現金 (資産) の減少
------------------	-----------------

4. 現金・掛売上

(借) 現金 (資産) の増加	(貸) 売上 (収益) の発生
売掛金 (資産) の増加	

5. 備品の購入

(借) 備品 (資産) の増加	(貸) 未払金 (負債) の増加
-----------------	------------------

6. 売掛金の回収 同店小切手→現金

(借) 現金 (資産) の増加	(貸) 売掛金 (資産) の減少
-----------------	------------------

7. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生	(貸) 従業員預り金 (負債) の増加
	現金 (資産) の減少

8. 手形の割引 割引料→手形売却損

(借) 当座預金 (資産) の増加	(貸) 受取手形 (資産) の減少
手形売却損 (費用) の発生	

### 第 2 問

損益計算書

費用 6,900,000	収益 7,250,000
当期純利益 (ウ)	

期末貸借対照表

資 産 53,500,000	負 債 (イ)	
	期首純資産 (ア)	期末純資産
	当期純利益 (ウ)	21,550,000

- (ウ) 当期純利益 = 収益 - 費用

$$\text{当期純利益} = 7,250,000 - 6,900,000 = 350,000$$

- (ア) 期首純資産 = 期末純資産 - 当期純利益

$$\text{期首純資産} = 21,550,000 - 350,000 = 21,200,000$$

- (イ) 期末負債 = 期末資産 - 期末純資産

$$\text{期末負債} = 53,500,000 - 21,550,000 = 31,950,000$$

### 第3問

支払欄・内訳欄に記入

10月19日	郵便代	5,880	→	通信費
20日	新聞代	4,509	→	雑費
21日	タクシー代	1,760	→	交通費
22日	インクカートリッジ代	3,700	→	消耗品費
23日	バス回数券代	2,100	→	交通費

### 第4問

10月7日 商品の仕入

前月繰越 (30個×@1,000) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{前月繰越} \quad 30 \text{ 個} \times @1,000 = 30,000 \\ \text{仕入分} \quad 100 \text{ 個} \times @1,100 = 110,000 \end{array} \right.$$

として併記する。

10月13日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す70個中、先に仕入れた30個(@1,000)を全て払い出す。

残りの40個分を、後からの仕入分(@1,100)で払い出す。

100個中40個払い出すので、残りは60個(@1,100)

10月15日 商品の仕入

仕入前残高 (60個×@1,100) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\text{仕入前残高} \quad 60 \text{ 個} \times @1,100 = 66,000$$

$$\text{仕入分} \quad 50 \text{ 個} \times @1,150 = 57,500$$

として併記する。

10月20日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す90個中、先に仕入れた60個(@1,100)を全て払い出す。

残りの30個分を、後からの仕入分(@1,150)で払い出す。

50個中30個払い出すので、残りは20個(@1,150)

## 第5問

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より 450,000

(借) 仕 入	450,000	(貸) 繰 越 商 品	450,000
繰 越 商 品	510,000	仕 入	510,000

#### 2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は 300,000

$$300,000 \times 1.0\% = 3,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は  $3,000 - 2,000 = 1,000$

(借) 貸倒引当金繰入	1,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	1,000
-------------	-------	---------------	-------

#### 3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は 1,500,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$1,500,000 \div 5 = 300,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	300,000	(貸) 備 品	300,000
---------------	---------	---------	---------

#### 4. 現金過不足の処理

1,000 を雑損(費用)として処理する。

(借) 雑 損	1,000	(貸) 現 金 過 不 足	1,000
---------	-------	---------------	-------

#### 5. 引出金の処理

引出金の金額 100,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	100,000	(貸) 引 出 金	100,000
-----------	---------	-----------	---------